

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は公募申請課題名)	潜伏感染ウイルスに対する抗体価の調査 (造血幹細胞移植後の免疫再構築およびウイルス感染症に関する検討)
研究期間	2016 年 4 月 1 日 ～ 2026 年 3 月 31 日
研究機関名	慶應義塾大学医学部 血液内科
研究責任者職氏名	准教授 森 毅彦

※献血者に対しても理解しやすく、平易な文言を使用した課題名を記入してください。

研究の説明	
<p>1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等</p> <p>造血幹細胞移植を行う血液疾患の患者さんは、移植後、免疫の極度に抑えられた状態となり、自分の中に潜んでいたウイルスが再び元気になり（＝再活性化）、重篤な感染症を起こすことがあります。このようなウイルスには、サイトメガロウイルスや水痘帯状疱疹ウイルスのほか、ヒトヘルペスウイルス 6 型、BK ポリオーマウイルスなどがあります。この研究はこれらのウイルスの再活性化を起こすメカニズムを探索し、予防法や治療法を開発することを目的としています。この研究により移植の合併症が減り、移植治療の成績が向上することが期待されます。</p> <p>2 使用する献血血液等の種類・情報の項目</p> <p>献血血液等の種類：検査残余血液（血漿） 献血血液等の情報：なし</p> <p>3 献血血液等を使用する共同研究機関及びその研究責任者氏名</p> <p>浜松医科大学医学部ウイルス寄生虫学 鈴木 哲朗 国立感染症研究所 ウイルス第二部 李 天成 大阪大学微生物研究所 神谷 亘</p> <p>4 研究方法《献血血液等の具体的な使用目的・使用方法含む》</p> <p>研究の一環として、ウイルスに対する抗体の有無を確認する必要があります。しかし、一部のウイルスについては、その測定法が確立していないものもあります。供与していただいた血液は、研究の中で確立した測定法により各種ウイルスの抗体価を測定し、成人における抗体価保有率を調べるために使います。</p> <p>5 献血血液等の使用への同意の撤回について</p> <p>研究に使用される前で、個人の特定ができる状態であれば同意の撤回が出来ます。</p> <p>6 上記 5 を受け付ける方法</p> <p>「献血の同意説明書」の添付資料の記載にしたがって連絡をお願いします。</p>	

本研究に関する問い合わせ先

所属	慶應義塾大学医学部 血液内科
担当者	山崎 理絵
電話	03-3353-1211 内線 62385
Mail	r-yamazaki@keio.jp